

あとかた ゆびの



2024. 12/21⁺ ~ 2025. 3/9^日

第I期: 2024.12.21 ~ 2025.1.31
第II期: 2025.2.1 ~ 3.9

ゆびのあとかた ～小松市所蔵品より～

令和6年12月21日(土)～令和7年3月9日(日)
第Ⅰ期：令和6年12月21日～令和7年1月31日
第Ⅱ期：令和7年2月1日～3月9日

休館日/月曜日(1/13、2/24を除く)、
1月14日(火)、2月12日(水)、2月25日(火)、年末年始(12月29日～1月3日)
開館時間/午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料/一般300円
※高校生以下無料 ※小松市在住65歳以上無料
※障がい者手帳等お持ちの方と介助者1名は無料
※こまつミュージアム・バス対応



4

一出品作家一 第Ⅰ・Ⅱ期展示

宮本三郎、中村翠恒、高村表恵、吉田棟堂、六代一瓢斎、津雪、粟生屋源右衛門、二代中村梅山、二代浅蔵五十吉、二代松本佐吉、寺西武久、西房浩二、安田 淳、三浦 泉、畑 尚治、西田洋一郎、初代徳田八十吉、九代大樋長左衛門、二代徳田八十吉、松本佐平

第Ⅱ期のみ展示

宮本三郎、生地太久、六反田英一、鈴木治男、吉田富士夫、中村翠恒、初代徳田八十吉、粟生屋源右衛門、鶯谷庄米、初代松本佐吉、北村西望、

7



5



6

作家たちは、自らの表現にむかい、制作中に奮闘を続ける人が多いのではないのでしょうか。作品制作の過程で構図や色彩の配置や風合いなどについて葛藤と納得を繰り返しながら、まさに、生みの苦しみといえる、努力や研鑽を重ねています。そして、自身が意図とする出来栄えにいたった時、満足感や達成感とともに安堵につながってゆくことでしょう。一旦、うまくいった場合、作品のスタイルが定型化することもありますし、定型化を避け、さらに飛躍をもとめる場合もあります。また、何か実験的に繰り返すことも。生まれ出たものに任される場合もあります。一方、生みの苦しみとは無縁に、描く・作る、楽しさや喜びしかないという方々もいます。

作家たちの意図するところは、作家それぞれです。自身の表現したいものにむかい、どうすればそれに近づけるか、どのような技術や技法を使えばいいのか、自身にとって未知の表現方法はないか等、真摯に向き合います。私たちは鑑賞時に技術・技法に注目しがちですが、作品からどのようなイメージを連想できるかを感じたり考えたりするとともに、なぜこの作品が生み出されたのか、どのような思いが込められているのか、またその時代背景などにも目を向けたとき、作家の心中や世界観に、さらに入り込むことができるのではないのでしょうか。

作家たちの指先から道具を伝ってあらわされたものを「ゆびからでた痕跡」とイメージし、本展では、小松市所蔵の平面作品を主として、痕跡が導き出す印象を「静かな1」「面白い、愉快的」「情熱的な、エネルギーッシュな」「静かな2」「楽し気な」として掲げ、紹介します。

学芸員ギャラリートーク

2025年1月18日(土)、2月11日(火・祝)
いずれも 11:00～
宮本三郎美術館にて

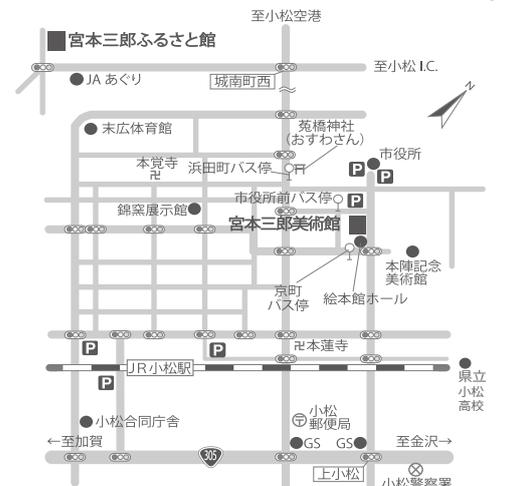
凧に絵を描こう！

日時：2025年2月1日(土)13:00～16:00
場所：松崎町公民館

(小松市松崎町16-1 / 宮本三郎ふるさと館前)
内容：子どもと保護者が1つつ凧に絵を
を描き、凧あげに挑戦します。

定員：10組 小学生以上の子ども + 保護者
参加費：1枚500円
事前申込：1月7日～19日まで(先着順)
申込み：宮本三郎ふるさと館
電話 0761-43-3032 ※月曜休館
持ち物：絵を描く道具、雑巾、水筒
※よごれてもよい服装

- 1：中村翠恒《大黒宝引置物》1945～(昭和20年以降)
- 2：制作者不明《陶人形》制作年不明
- 3：安田 淳《夏夢》1990(平成2)
- 4：宮本三郎《百花繚乱》1970(昭和45)
- 5：宮本三郎《手をあげる踊り子》c.1962-65(昭和37-39頃)
- 6：吉田富士夫《道化の獅子舞》1999(平成11)
- 7：鈴木治男《水の記憶一分断》2016(平成28)



【アクセス】
・JR小松駅より徒歩15分 ・北陸自動車道小松1.C.より車で10分
・JR小松駅より市内巡回バス(北コース)に乗車「市役所前」下車
・小松空港よりJR小松駅前行きバスに乗車「西町」下車、徒歩5分

小松市立
宮本三郎美術館

〒923-0904 石川県小松市小馬出町5
TEL: 0761-20-3600

